



滋賀県青少年赤十字指導者協議会  
日本赤十字社滋賀県支部

滋賀県青少年赤十字だより

# JRCLが

junior red cross

No.30

滋賀県青少年赤十字加盟校(園) (令和5年度)

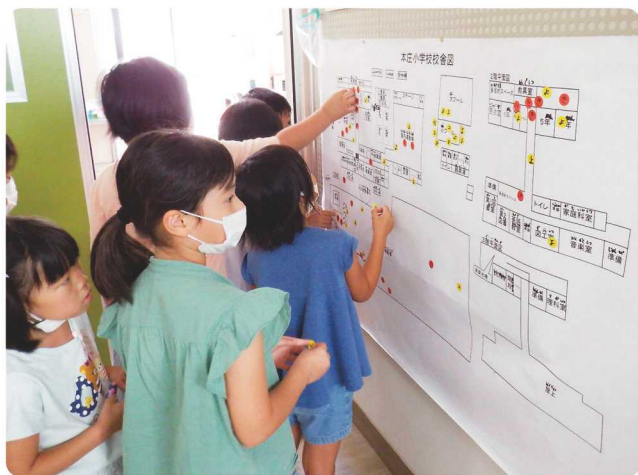
校種	加盟校(園)数
保育園・幼稚園	9
小学校	160
中学校	45
義務教育学校	2
高等学校	14
特別支援学校	1
計	231

健康・安全 奉仕 国際理解・親善



災害用品に  
リップ作り  
を使ったス  
リッパ作り  
やその他防  
災用品につ  
き、新聞紙  
を使ったス  
リッパ作り  
やその他防  
災用品につ

活動になり  
ました。特  
に親子防災  
教室では、  
地震や風水  
害に備え、  
応急手当や  
非常食づく  
り、新聞紙  
を使ったス  
リッパ作り  
やその他防  
災用品につ



令和4年、5年度に滋賀県青少  
年赤十字研究推進委嘱校の指定を  
受け、青少年赤十字の目標の具現  
化を目指し、研究テーマに沿いな  
がら授業づくりや児童の活動実践  
に取り組みました。

初年度は、各教科での授業の中  
で児童が主体的に学ぶ姿が増える  
ようにと、読み解く力を発揮し学  
びが深まるよう創意工夫をした授  
業づくりに力を入れました。また、  
特別活動では、これまでの活

動に「気づき 考え 実行する」  
の実践的な態度の育成を柱として  
加え、児童活動を展開していきま  
した。「健康・安全」では命の授  
業、「奉仕」として花いっぱい活  
動、「国際理解・親善」では海外  
に居住されている方との交流、「防  
災」では親子防災教室など、多岐  
に渡る活動を仕組みました。これ  
までの育ちの中では児童が触れる  
ことがなかった多様な考えや価値  
観と出会い、児童の視野を広げる  
一助とする  
ことができ  
ました。特  
に親子防災  
教室では、  
地震や風水  
害に備え、  
応急手当や  
非常食づく  
り、新聞紙  
を使ったス  
リッパ作り  
やその他防  
災用品につ

「けがマップ」作りをきっかけに、滑りやすさやけがにつな  
がる原因が運動場のインシ  
クラゲであることに気づき、  
それらを除去し安全な場所  
にしたいとインシクラゲ退治  
大作戦へつながった活動は、  
活動の中心になる児童に賛  
同した有志の児童の協力も  
あり、初年度から息の長い  
活動になりました。

最後に、これらの取り組み  
から学んだことは、児童  
の主体性  
の高まり  
や自己肯  
定の高  
まりは、  
予測困難  
な未来を  
生き抜く  
心豊かで  
たくまし  
い子の育  
成に、重  
要なポイントとなること  
です。青少年赤十字の目標の具現化  
は、校訓「たくましい子 本庄の  
心」の具現化でもあると考えます。  
2年間の取り組みの成果と課題を  
生かして、さらに児童活動が活気  
に満ちたものになるよう、引き続  
き取り組んで参ります。

**研究主題**  
読み解く力を発揮して学びを深める授業づくり  
自ら考え、判断し、実行する子の育成をめざして

本校は、豊かな自然に囲まれ、琵琶湖畔に位置した小規模校です。地域とのつながりが強く住民の方々の協力に支えられ、児童は手厚い支援を受けながら学校生活を送っています。温かな人間関係の中、安心して学習できる反面、守られすぎることで児童の主体性に欠けることや、多様な考え・価値観に出会う機会が少ない実態があります。本研究は、そのような児童の実態に変容を促そうと取り組んだ実践です。

高島市立本庄小学校

いて学び、防災意識を高めること  
ができました。

2年次の研究は、特別活動に軸  
足を移し、児童活動の活性化を図  
りました。学校生活における児童  
の「気づき」をもとにどうすれば  
よいか児童が取り組みを「考え」、  
「実行」する活動となるようとし、  
それを【JRCL活動】としまし  
た。児童が「やってみたい」と  
思う活動を中心に展開し、指導者  
は相談やサポートの役割に徹する  
ことで、児童が主体となる活動に  
することができました。JRCL活  
動の初めに、「気づき 考え 実  
行する」と笑顔あふれる学校をめ  
ざして」という学校スローガ  
んを児童の話し合いにより設定しま  
した。笑顔あふれる学校を作るた  
めに自分たちは何ができないのか  
今の学校には何が足りないのかな  
ど、学校スローガンが児童の「気  
づき」の視点を増やし、学  
校全体で一丸となって活動  
していく際のよりどころと  
なりました。中でも、学校  
の危険を知るために始めた  
「けがマップ」作りをきっかけに、  
滑りやすさやけがにつな  
がる原因が運動場のインシ  
クラゲであることに気づき、  
それらを除去し安全な場所  
にしたいとインシクラゲ退治  
大作戦へつながった活動は、  
活動の中心になる児童に賛  
同した有志の児童の協力も  
あり、初年度から息の長い  
活動になりました。



JRCLが 令和6年4月1日発行

日本赤十字社 滋賀県支部  
Japanese Red Cross Society

〒520-0044 大津市京町四丁目3番38号 TEL.077-522-6758

**学校で取り入れてみませんか  
救命講習・着衣泳・防災セミナーを  
実施しています。**

みなさんの学校で、救命講習や学校水泳での着衣泳、防災学習などの講師でお困りのことはありませんか。

赤十字では、心肺蘇生法やAEDの使い方、水の事故で自分を守るための着衣泳、災害が起こった時の対応や備えなどの講習を実施しています。

対象は児童・生徒はもちろん、先生方の研修にもご利用いただけます。また、青少年赤十字の加盟校であれば、講師料はかかりません。

手続きは簡単で、希望日と時間、内容を伝えていただき、所定の申込フォームからお申し込みただただで完了します。

「時間が短くてもやってもらえない?」「実習の時間を多くとってほしいです」など、気になることがありましたら是非、日赤滋賀県支部までお問い合わせください。

**【お問い合わせ】**  
日本赤十字社滋賀県支部  
事業推進課  
077152216758

夏休み前の着衣泳の授業  
親子参観で防災学習

**令和6年度青少年赤十字主要事業計画(案)** 通年事業：青少年赤十字メンバー・加盟校応援プロジェクト事業を実施

月	日	行事	実施場所	期間	参加者
4	下旬	指導部役員会	日赤滋賀県支部会議室	1	会長・副会長・顧問・県指導員
5・6	5/30	第1回滋賀県青少年赤十字高校生連絡協議会	滋賀県危機管理センター	1	高校生メンバー、指導者
	31~2	リーダーシップ・トレーニング・センター指導者養成講習会	東京都・国立オリンピック記念センター	3	青少年赤十字指導者
6	13	全国指導者協議会総会・研修会	日赤本社	1	会長
	中旬	郡市支部長会	長浜市内	1	会長・副会長・顧問・郡市支部長・指導部長
		青少年赤十字指導者協議会第76回定期総会並びに研修会 滋賀県青少年赤十字指導者研修会	未定	1	県内指導者
7・8	下旬	近畿ブロック指導者研修会	和歌山県	1	青少年赤十字指導者
8	6・7	郡市主催トレーニングセンター	各支部	1	各支部メンバー
10	30	リーダーシップ・トレーニングセンター	森の未来館	2	小・中・高メンバー
10	30	第2回滋賀県青少年赤十字高校生連絡協議会	県内青少年赤十字高等学校加盟校	1	高校生メンバー
11	22	青少年赤十字研究推進委嘱校発表大会	長浜市立北郷里小学校	1	県内指導者
12	下旬	指導部役員会	日赤滋賀県支部会議室	1	会長・副会長・顧問・県指導員
1	10	指導主事対象青少年赤十字研究会	日赤本社	1	指導主事
3	上旬	郡市支部長会	日赤滋賀県支部会議室	1	会長・副会長・顧問・郡市支部長・指導部長
	下旬	青少年赤十字スタディー・センター	山梨県・東照館	5	高校生メンバー

**編集後記**

JRCLが30号をお届けします。  
本年1月1日に発生した能登半島地震災害では、多くの方が被害にあわれました。こうした中、県内の多くの青少年赤十字加盟校から日本赤十字社滋賀県支部に災害義援金が寄せられました。報道などで被害の大きさを知った子どもたちが「気づき」、「考え」、「実行し」募金活動をおこなったそうです。その主体的な活動は、先生方の適切な指導と助言、地域の皆さまの温かい支援に支えられ実施できたことがうかがえます。これからも、青少年赤十字活動へのご理解・ご協力をお願いいたします。

# 令和5年度滋賀県青少年赤十字 リーダーシップ・トレーニング センターの活動を終えて

令和5年8月4日守山市立守山小学校において県内の小学生40名、中学生16名、高校生6名の計62名が参加し、守山市のJRC部会の協力のもと、滋賀県青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンター（以下、トレセン）を開催しました。トレセンでは青少年赤十字に関する知識を身につけ、赤十字の精神を活かした良きリーダーを養成するという目的のもと、小・中・高校生が集団生活において、フィールドワークやグループワーク、VS（ポラントリーサービス）活動等の様々なプログラムを体験し、リーダーシップの取り方を学びます。トレセンは、特定の参加者だけがリーダーシップを取るのではなく、ある時は



リーダーになり、またある時には協力者の立場を取ることで、メンバー全員がリーダーシップの取り方を学べることが特徴です。また異年齢との交流を通して、コミュニケーション能力の向上や、自主性の伸長が期待されます。今年度は次のようなプログラムを行いました。

- ①レクリエーション 初対面の人たちとの心の距離を縮めるためにアイスブレイク活動を行います。
- ②赤十字概論 学校生活と赤十字・青少年赤十字の関わりや、歴史を学びます。
- ③フィールドワーク 各チェックポイントをグループで回りながら、赤十字・青少年赤十字の知識・態度・行動を学びます。
- ④VS（ポラントリーサービス）活動 みんながより良い生活をするために自分が行動できることに気づき、考え、実行します。トレセンは、「誰も号令をけない生活」が特徴的です。学校生



活とは異なり号令や指示は無く、青少年赤十字の態度目標である「気づき・考え・実行する」を意識して活動を行いました。一日という短い期間での活動ではありましたが、トレセンを通して、子どもたちは大きく成長することができました。

これまでコロナ禍の影響もあり、県内でのトレセンの開催が幾度も中止となり、今回は約4年ぶりの開催となりました。そのため、行動制限が緩和されたばかりの中で、どこまでの活動ができるのかを考えていくことはとても難しいことでした。また小・中・高校生の集団が、共に協力し合って何か一つの活動する機会はなかなか持てるものではありません。このことから、フィールドワークでは、協力しコミュニケーションをお互いに取ることを大切に活動を考えました。また、開催時期が8月ということもあり、熱中症の心配もありましたので、活動する場所をエアコンの完備された教室内でできるように工夫しました。当

日は、各教室で出される指示書に子どもたちは自分たちから仲間と協力し、気づき・考え・実行する姿が見られました。

参加した子どもたちは最後のホームルームのふり返りの中で、「初めて出会った人たちとこれだけ仲良くなれると思わなかった。」「自分たちで「気づき・考え・実行する」ことで課題を解決することができた。」「自分で考えること、仲間と協力することの大切さを学びました。」「といった言葉が返ってきました。子どもたちは一日という短い時間ではありましたが、リーダーシップの取り方、コミュニケーションの取り方を学んでくれたように思います。

子ども達の感想の中にもありましたように、同じ参加者との交流から多くのことを学んでいました。令和6年度はさらに参加者同士で交流し、自分たちで考える活動を増やしていきたい、よりよいトレセン活動となるように取り組んでいきたいと思っております。



# 令和5年度青少年赤十字 国際交流集会に参加して

滋賀県立八幡高等学校 川嶋 沙奈



私は令和5年11月23日から11月26日の4日間で行われたJRC/RCY International Meeting "Tokyo 2023"に滋賀県支部代表で参加しました。

初日の1番初めに行われたアイスブレーキングでは国内外のメンバー、スタッフの皆さんと一緒に「猛獣狩りに行くことよ」の英語パーティンションを行いました。初めて会う人達ばかりで初めは緊張していたのですが、ゲームを通してコミュニケーションをとり緊張をほぐすことが出来ました。

ディスカッションでは事前に決まっていた「平和学習」のHR4

つと「気候変動」のHR4つの計8つのHRに分かれ事前課題で調べていたことをもとにグループ発表に向けて話し合いを行いました。私は気候変動のグループで香港、シンガポール、マレーシア、タイの4カ国のメンバーと日本人メンバー4人でディスカッションを行いました。初めは各国でどのような気候変動の対策をしているか、世界の気候変動の現状などを通訳の方を交えながら英語で話し合いました。

フィールドワークではHRのメンバーと力を合わせて気候変動についての問題を解いたり、豆つかみやボール運び、紙飛行機などを作ったりと色々なゲームを行いました。サス学では初めに教材の動画を見てアイデアシートにどのようなことをすれば良いかなどを考えました。他にも学習だけでなく文化交流も行いま



した。各国の伝統衣装を着たり、踊りや歌などを披露しました。私たち日本メンバーはよさこいソランを踊ったり、浴衣を着てマツケンサンバを踊りました。

3日目に開催されたグループディスカッションの発表では、各HRが3日間話し合った内容を発表したり動画を作成したりするなど色々な発表方法があり楽しみなが勉強することが出来ました。

この4日間得たことが2つあります。まず1つ目は幅広い交友関係です。色々な都道府県のメンバーと友達になったり、マレーシア、香港、タイ、シンガポール、モンゴル、インドネシア、ネパールの他国の友達が出来たので、とても良い経験になったと思います。公用語が英語なので少し言語に苦戦したけれど、たくさん会話ができて楽しかったです。これをきっかけに英語を話せるようになりたいと思いました。

2つ目は色々な国の活動内容を知ることができました。特に印象に残ったのはネパールのタバコの吸殻回収や山の中の事故があったときの

救命活動、タイの文字の読み書きのポラントリー、マレーシアのコロナ期に前線に出て医療を助けるなどの活動です。

International Meetingに参加する前は英語が話せなくて不安だったのですが、この4日間で英語が聞き取れるようになったり少し話せるようになったりしたのでとても楽しかったです。

この4日間で学んだことを忘れては、自分だけで留めておくのではなく家族や学校など色々な人と共有していきたいです。

